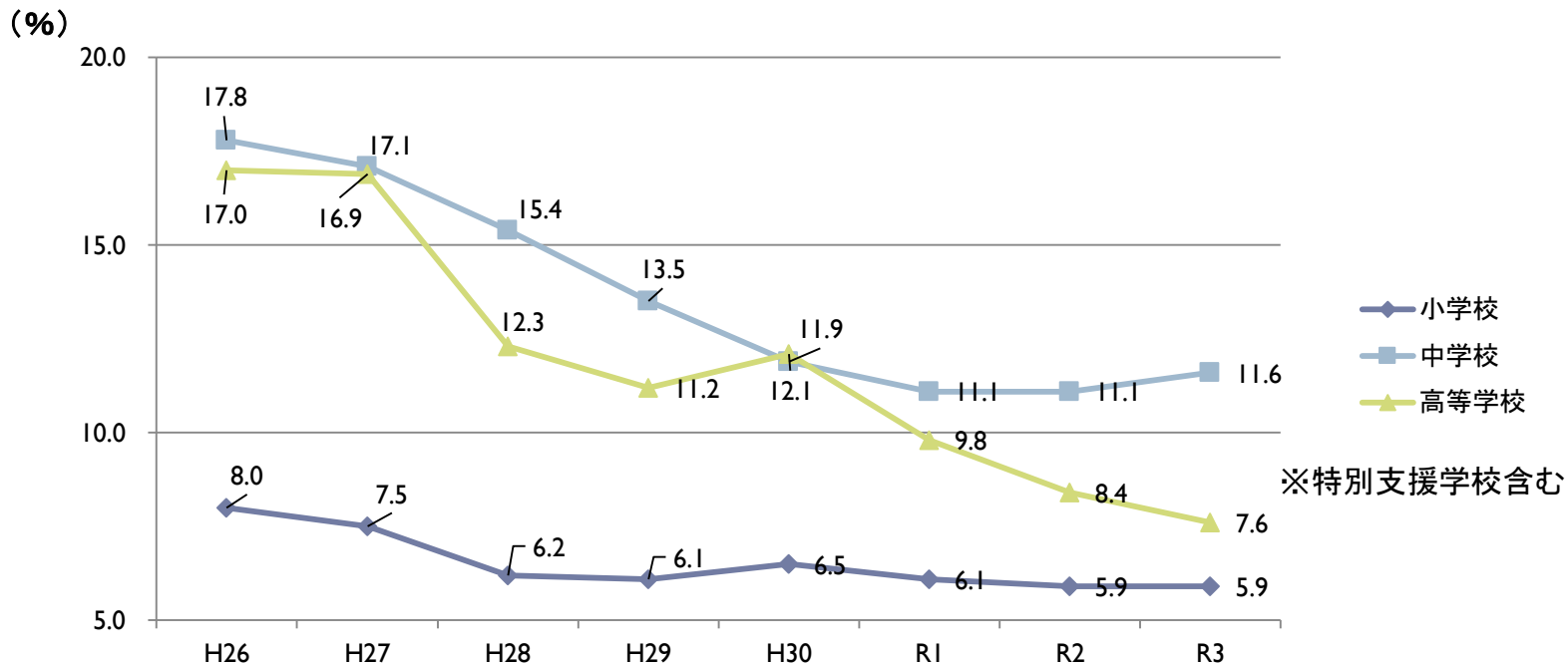


- ▶ 設問5「あなたは、自分がいじめられたら、誰に相談しますか。」に対し、「キ 誰にも相談しない」と回答した児童生徒に対する聴取り調査結果

札幌市教育委員会学校教育部児童生徒担当課

「キ 誰にも相談しない」と回答した子どもの割合の推移 (H26~R3)



○「キ 誰にも相談しない」と回答する児童生徒の割合は減少傾向にはあるものの、1割程度いることが課題。相談しない理由について把握するとともに、相談の仕方や相談することの意義についての指導を充実させる必要がある。また、日常的に大人(教師)同士が相談しながら物事を進める姿を子どもに見せるなど、子どもが相談することの大切さを理解できるようなモデルを示すことも有効である。

誰にも相談しない子どもの内訳（R3）

	理由	小学校		中学校		高等学校		（うち特別支援学校）	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	誰に相談すべきかわからない	311	6.9%	429	8.6%	33	5.9%	1	5.6%
2	家族に心配をかけたくない	1015	22.4%	815	16.4%	44	7.9%	0	0.0%
3	弱い立場を知られたくない	112	2.5%	145	2.9%	20	3.6%	0	0.0%
4	相談したことが他の人に知られることが心配	198	4.4%	219	4.4%	34	6.1%	1	5.6%
5	相談したことに対する仕返しが恐ろしい	117	2.6%	80	1.6%	7	1.3%	0	0.0%
6	仲間外れになるのが心配	43	0.9%	64	1.3%	6	1.1%	0	0.0%
7	相談しても改善が期待できない	296	6.5%	636	12.8%	85	15.2%	5	27.8%
8	現状のさらなる悪化が心配	127	2.8%	199	4.0%	16	2.9%	0	4.2%
9	うまく伝えられない	485	10.7%	516	10.4%	28	5.0%	1	5.6%
10	自分で解決したい	1,472	32.5%	1,641	33.0%	225	40.3%	6	33.3%
11	その他	353	7.8%	227	4.6%	60	10.8%	4	22.2%

○すべての校種に共通して、「自分で解決したい」と回答する児童生徒の割合が高い。

誰にも相談しない子どもの内訳（R3）

▶「自分で解決したい」(特別支援学校含む)

- ・ 小:32.5% 中:33.0% 高:40.3%
- ・ 全ての校種において「自分で解決したい」と回答する児童生徒の割合が高い。

◆関わりのポイント

- 自分で解決しようという気持ちを尊重しつつ、他者に頼ることは、視野を広げ、心を成長させることになることを伝える。
- 答えは一つではないこと、様々な解決方法があることを共に考え、その中から自分で選択していくことが生きる力につながることを教える。
- 小学校低学年からの心理教育的な取組(コミュニケーションを上手にとれるようにしたり、友達との関係で失敗しても修復可能であることを学んだり等の取組)をスクールカウンセラーと協力して取り組む。

誰にも相談しない子どもの内訳（R3）

▶「家族に心配をかけたくない」（特別支援学校含む）

- ・ 小:22.4% 中:16.4% 高:7.9%
- ・ 年齢が低いほど、「家族に心配をかけたくない」と回答する児童生徒の割合が高い。

◆関わりのポイント

- 家族に話すと、具体的にどのような反応が返ってくるか、一緒に考える。
- 家族は、共に悩み、成長を支えてくれる存在であることを伝える。

誰にも相談しない子どもの内訳（R3）

▶「相談しても改善が期待できない」（特別支援学校含む）

・ 小:6.5% 中:12.8% 高:15.2%

- ・ 発達の段階が上がるにつれ、「相談しても改善できない」と回答する児童生徒の割合が高い。

◆関わりのポイント

- 過去の相談で失望体験があれば、そのことも踏まえ、相談したことを後悔させないように相談支援体制を充実させる。
- 小さな変化でも、肯定的に捉えることができるように導く。
- 解決することだけが目標ではなく、人に話をすることで気持ちや和らぐこともあることを伝える。

誰にも相談しない子どもの内訳（R3）

▶ 「うまく伝えられない」（特別支援学校含む）

・ 小：10.7% 中：10.4% 高：5.0%

- ・ どの校種においても、他者に不安や悩みをうまく伝えられないと考える児童生徒が見られる。

◆ 関わりのポイント

→ うまく話せなくても大丈夫であると声をかけたり、すぐカットとなり行動に移してしまう子どもに対しては気持ちを鎮めさせるなどして、子どもを安心させて、ゆっくりと話を聴く。

→ 日常的な声かけに加えて、表情やしぐさの変化など非言語的メッセージからも気持ちを汲み取る。

→ 相談がまとまっていなくてもよいことやうまく話せなくてもよいことをスクールカウンセラーとの相談の時に伝えたり、お便りで周知したりする。

誰にも相談しない子どもの内訳（R3）

▶「誰に相談すべきかわからない」（特別支援学校含む）

- ・ 小：6.9% 中：8.6% 高：5.9%
- ・ どの年齢においても一定の割合で相談先に悩む児童生徒が見られる。

◆関わりのポイント

- 教師、養護教諭、スクールカウンセラーなどに相談できることや、相談方法などを繰り返し知らせ、相談しやすい雰囲気づくりをする。
- 具体的に相談相手を見つけられるよう手助けをする。